



発行所：みんなで政治を考える会
〒615-0062 京都市石京区西院坤町2
ハウスドゥ四条ビル601
TEL.075-315-2228 FAX.075-315-2310

発行人：二ノ湯 智
国会事務所
〒100-8962 東京都千代田区永田町2-1-1
参議院議員会館632号室
TEL.03-3508-8632 FAX.03-5512-2632

えとす(Ethos)とは、文化や習慣を意味し、豊かな精神をはぐくみ、平和を希望する言葉です。
題字：栢木寛照

えとす

年間購読料 1,200円(一部100円)
第3種郵便物認可 平成2年1月18日
口 座 01000-4-62360

平成22年 **3** 月号
No.223

京都の智恵を日本に活かす。
二ノ湯智ホームページ <http://www.ninoyusatoshi.com>

谷垣総裁に望まれる強い指導性 党内抗争より外への攻撃が必要



地域の方々と懇談する谷垣総裁(大分県今鹿町にて)

結束こそ自民党再生への道

鳩山首相、小沢幹事長の「政治とカネ」をめぐるスキャンダル、沖縄の米軍普天間基地の移設問題での迷走で鳩山内閣の支持率は40%を下回り、民主党への支持もゾリ貧傾向である。先の長崎県知事、町田市長選挙の結果を見ても明らかである。だが、民主党の相次ぐ失政にもかかわらず、自民党への支持も高まらず、民主党政権の失政を生かし切れない谷垣総裁初め執行部に対する欲求不満が党内に日増しに高まっている。舛添元厚労大臣は総裁の辞任を求め、与謝野元財政金融大臣は新党結成をほのめかしている。何とも騒々しい自民党内である。小泉首相以降、自民党は安倍、福田、麻生と3人の首相が1年足らずで交代し、国民から愛想をつかされて、挙句の果てに政権を失った。切磋琢磨は大事であるが、今の自民党には党内抗争している余裕などないはずである。総裁を交代させるようなことがあれば、今度こそ完全に国民から見放されてしまっただろう。今大事なことは、長い間の与党ボケを改め、地域に入って国民の生の声を聞き、政治に反映させ、自民党独自の政策を示すことである。

恒心

★カナダのバンクーバーで冬季オリンピックが17日間にわたって行われた。日本選手は浅田真央選手の銀メダルほか銀2、銅2の計5個の成績で、正直物足りない結果で終わった。オリンピックは参加することに意義があるといわれる。オリンピックで国威発揚をせよとは言わないが、日本の選手の活躍に関心が向く。国も金をかけ選手強化に取り組んでもらいたい。★今回、日本選手団の団長を務めたのが橋本聖子氏(元スビードスケート選手・自民党参議院議員)。先日の自民党参議院議員総会で挨拶し、「今回のオリンピックでは、色々考えることがあった」と述べた。はつきりと名指しはしなかったが、成田空港出発時に、シャツ出し、腰パン姿で現れ批判を浴び、その後の記者会見で「ちえ、うるせいな」とつぶやき、各方面で響(おんぶく)を買い、物議をかもしたスノーボードの国母和宏選手のこととすぐにわかった。★日本を代表して出場するのだから、それなりの身なりは絶対が必要である。私は以前から、公の場における服装の乱れが気になっていた。学校の先生がジーパン、トレーナーで教壇に立つのも問題だと思っていた。その当時、聖職者たる教員が何事だと自民党の国会議員も怒っていた。その国会議員が小泉内閣の時から、クールビズなどと言って、上着も着ず、ノーネクタイの軽装で活動をはじめた。

★私生活の時まで、スーツ、ネクタイを絶対に着用せよと強制はしないが、国会議員が公の場に出る場合、それなりの服装が要求される。本会議、閣議などで上着なし、ネクタイなしのラフなスタイルが目立った。私はその光景が、全く緊張感も無く、だらけた雰囲気に見えて情けなくなった。大臣がそんな状態だから若者に注意しても、どうして悪いのかと逆に居直られることになる。因果応報である。

「二ノ湯さとし」が 参議院選挙に向けて有権者 に訴えたい重点政策

- 1、教育投資を増やして創造力豊かで、高い道徳観を備え、強い精神力を持った人材の育成こそが急務である。
- 2、永住外国人への地方参政権、選択的夫婦別姓は日本の家族観、社会観を一変させる危険性があり、絶対に阻止しなければならない。
- 3、日本の安全保障を考える上で、日米同盟は死活的に重要である。普天間基地の一日も早い解決を図るべきである。
- 4、党の綱領もない、国の安全保障など基本的な政策も明確に出来ない民主党に参議院でも過半数を取らしたならば、小沢一郎幹事長の独善的、専制的な政治手法で日本の政治が危険な方向に行ってしまう。これを絶対に許してはならない。

自民党京都府連、 山田氏支援を決定 予断を許さない知事選挙の行方

3月25日告示、4月11日投票日の京都府知事選挙は、政権交代後の初めての選挙とあって、選挙への取り組みに向けて各党、各党派ともなかなか足並みが揃わなかった。昭和53年の林田選挙以来、前

回までの知事選挙は確認団体「活力ある京都をつくる会」で戦ってきた。会長は歴代の京都商工会議所会頭、事務長は自民党の幹事長が務めてきた。昨年8月に政権交代して自民党は野党となったが、京都府会、市会では依然として与党の第一党であり、地方政治の勢力地図には変化がない。ところが今回、確認団体の会長に立石義雄氏が就任、名称が「希望の京都をつくる府民の会」に変更された。しかも事務長に民主党支援の連合京都会長が座った。自民党としてはこの人事に釈然とせず、党の主体性を発揮できるような体制になるよう求めていた。再三の話し合いの中で、自民党の要望も入りようやく「希望の京都」も本格的に動き出した。これを受けて2月27日、国会、府会、京都市会、地方議員による自民党議員総会が開かれ、自民党京都府連として、山田啓二氏を支援することに決定、府連内に選挙対策本部(本部長・二ノ湯智参議院議員)を設置、山田氏の3選に向け、全力を挙げることを確認した。



山田啓二を励ます「総決起集会」

京都府知事選挙に当たって



てこられました。

共産党支配の京都府政を打倒することとは自民党京都府連の長い間の政治目標でありました。昭和53年「天の時、地の利、人の和」を得て、ようやく保守中道の林田悠紀夫知事が誕生しました。あの時の感激、喜びを知る人は今や少なくなってきました。林田知事は共産府政によって遅れた京都の社会基盤整備を取り戻すために懸命の努力をされました。

林田知事の後を引き継がれた荒巻知事も京都府民の期待に応えて、京都の均衡ある発展のために頑張られました。

8年前、知事に当選された山田啓二氏は地方自治への高い見識で地方の時代にふさわしい地域主権を確立するために全国の知事の先頭に立って活動してこられました。さらに、安全・安心・希望の京都づくりを推進するため各種の施策を展開、大きな成果をあげ

山田知事の8年間の実績はわれわれ自民党としても大いに評価しているところであります。しかし昨年8月、政権を失いました。今回の知事選挙は野党になって初めての選挙であります。自民党としてどう対応するのか。正直戸惑いがあったのも事実であります。知事側にも政党にどう関わってもらったのいいのか、多少迷うところもあつたのではないかと思います。結局、山田氏はどの政党からも推薦をもらわないで、確認団体の「希望の京都をつくる会・会長立石義雄氏」で選挙を戦いたいと表明されました。しかし、政党抜きで、手ごわい共産党推薦の対抗馬に勝つことはできません。「希望の京都」の組織体制に多少の不満もありませんが、共産府政を再び誕生させてはなりません。夏の参議院選挙での共産党議席獲得を阻止するという立場に立つて山田啓二氏を自民党京都府連で支援することに決定しました。自民党府連は選対本部を設置、山田氏三選に向けて各議員が全力で知事選挙に臨む覚悟であります。

参議院議員 **二ノ湯 智**

6月から 「子ども手当」の支給開始

趣旨どおり生かされるか疑問

昨年8月の総選挙で民主党は、月額2万6千円の「子ども手当」を0才〜15才までの子供を対象に支給するとマニフェストに掲げ、子どもを持つ若い世代の支持を得て大勝した。したがって民主党政権としては、7月の参議院選挙を控え、どうしても「子ども手当」は実施しなければならぬ。「子ども手当」の対象者は約1千7百万人で、手当の支給は養育者である父又は母が受け取る。支給方法は2月、6月、10月の年3回に分け、原則として銀行振り込み、例外的に市町村役場の窓口で受け取ることも出来る。最近給食費や学校の諸経費などの滞納をする父兄が多いといわれている。この「子ども手当」から給食費などを天引き出来れば滞納がなくなるという意見があるが、社会保障

過疎法が延長

過疎地域が過疎から脱却できるか

昭和30年以降の高度経済成長に伴い、日本各地で東京大阪などの大都市に向けて大きな人口移動が起こった。農山漁村地域では急激な人口減少が進み、いわゆる過疎問題が深刻化してきた。これを受けて、関係都道府県を中心に、地方公共団体から国に対して過疎対策の早期確立に向けた強い要望や陳情活動が行われ、過疎対策を推進するために昭和45年、過疎地域対策緊急措置法が成立した。その後10年ごとに法律が4回延長されてきた。この法律によって過疎対象の自治体の道路をはじめとして社会基盤整備は相当進んできたことは確かである。しかし、過疎地域は、依然として人口減少と著しい高齢化に直面し、財政状況も厳しく、農林水産業の衰退、維持・存続が危ぶまれる集落が発生し

費等は天引きすることが出来ないことになっている。

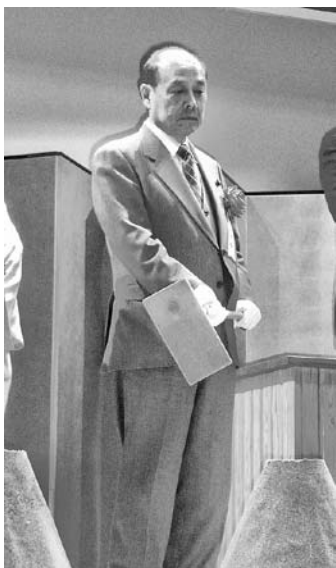
「子ども手当」は次代の社会を担う子どもの健やかな育ちを支援するために支給する。支給を受けた者は、趣旨に従って使用しなければならぬが、国の方からこれこれのものに使用してはならないという禁止規定があるわけでない。しかも後日、手当の支出について監査もないので、何に使用しても自由である。手当の額が大きいだけに、住宅ローンの支払い、親の遊興費に消えてしまうのではないかという心配もある。さらに、永住外国人、今後1年以上日本に滞在予定の外国人の子どもにも支給されることになっており、この制度を悪用する者が増えてくるのではないかと予想される。毎年、約5兆4千億円ほど財源が必要とされる「子ども手当」、今年は事業仕分けで何とか財源を確保したが、平成23年度からどうするのか、継続するには安定した恒久財源が必要であり、前途には相当大きな困難が待ち受けている。

ている。身近な生活交通の不足、地域医療の危機など、住民生活にかかわるさまざまな課題に直面している。過疎地域に対する支援策を盛り込んだ現行の過疎法が、平成22年3月31日に期限切れを迎えるために、過疎法の継続を求める声が、地方から多く出されていた。そこで各政党間の協議を経て、3月2日の衆議院本会議、3月10日の参議院本会議で、全会一致で可決された。二ノ湯参議院議員は丹後、丹波のいわゆる過疎地域を昨年10月から回って現状をつぶさに視察しているが、正直事態は非常に深刻である。人口減少だけでなく、極端に子供の数が減少し、集落に入ってから子供の姿を見ることが少ない。村の人は「私たちが亡くなったら村は廃村です」と言われるが、山や川を守っている人に手を差し伸べるとともに、国土を守り、地方に伝わる文化や生活の知恵を継承するためにも国や自治体は思い切った手を打つ必要がある。

京北住民、永年の念願かなう

栗尾トンネルが着工

京北町細野の栗尾峠は急坂でしかもカーブが多く、雪が降った時など自動車の運転は大変危険である。昭和30年3月に、1町5村(周山町、山国村、黒田村、弓削村、細野村、宇津村)が合併して京北町になって以来、京都市と京北町との距離を近づけるためにトンネル建設は町の強い要望であった。昭和48年4月、京都市の協力を得て、細野〜中川間の笠トンネル(1199M)が貫通し、京北町と京都市間が一歩近づいた。次は栗尾トンネルの建設をと京北町は京都府や国に要望活動を続けていた。平成9年11月28日、京都市、京北町の議会、理事者によって構成された「国道162号線京都〜周山間改修促進期成同盟会」が結成され、その場で栗尾トンネル建設要望が具体的に出来た。平成17年4月、京都市と京北町が合併し、京都市に約500億円の合併特例債が認められた。合併の際に取り交わした「合併建設計画」の中に栗尾トンネルが盛り込まれ、合併特例債を財源として建設することが決まった。合併から5年の時間が過ぎて、京北住民の永年の夢がようやく現実となった。さる3月7日、一般国道162号線栗尾トンネル(2313M)の着工式が行われた。



二ノ湯議員の着工式

第197回 みんなで歩こう湯歩会(参加者55名)



吉田、宗忠神社にて

第196回 みんなで歩こう湯歩会(参加者65名)



近江神宮にて

身辺雑記

第198回 みんなで歩こう湯歩会

- ・日 時：3月28日(日) 小雨決行
 - ・集合時刻：午前9時(時間厳守)
 - ・集合場所：阪急長岡天神駅西口
 - ・コース：長岡天満宮→海印寺→柳谷橋→小泉川沿い→調子八角→勝竜寺→JR長岡京駅解散
 - ・今回は、早春の長岡京方面を歩きます。是非ご参加ください。
- (当日) ☎090-1956-7460

歩くことは健康の基本

一、先日、学生時代仲の良かった友人から、久しぶりに電話が掛かった。百才になった父親が急に私と話をしたいと言いだしたので、電話に出てほしいとのこと。約45年ぶりの会話である。こんな私を思い出してもらい嬉しい限りである。

一、私達夫婦に幸いに男2人、女2人の4人の子宝に恵まれた。3人の子供達はすでに社会人として頑張っている。一番下の女の子が今春大学を卒業、会社勤めを始める。ようやく親としての役目を果たしほっと一息である。

一、犬も歩けば棒に当たるといふ。府内各地を歩いていると、色々な人間関係に出

会う。世間は広いようで狭い。縁というのはどこにあるか解からない。それだけに常日頃から、人間関係を大事にしなければならぬとつくづく思う。

一、学校への登下校時に、交通事故に遭っていないように、黄色い旗を持って交差点や横断歩道で、多くのボランティアが子供たちを見守っている。だが、学校の先生、親、子供たちのほとんどが感謝の言葉一つ掛けないようである。

一、多くの日本人を拉致し、反日的な教育が行われていることを考えれば、朝鮮学校への補助金の交付はとも国民の理解が得られない。大阪の橋下知事も言うように金正日の肖像画をはずし、反日教育を止めることが先決である。

一、鳩山邦夫元総務大臣が自民党を離党した。党が困難に直面しているこの時期に離党するのは、全く理解できない。邦夫氏も母親のお金で政治資金を賄っていることは明らか。かっこよく言っているが、もし新党を立ち上げれば、氏の政治資金も集中砲火を浴びるだろう。

「えとす」購読のお願い

月刊誌「えとす」は毎月一回の発行です。
毎月ご希望の方は、郵便口座振替にて、ぜひお申し込み下さい
年間購読料 1200円
郵便振替口座 01000-4-62360
口座名：みんなで政治を考える会

— お問い合わせ先 —
ニノ湯さとし事務所
電話 075-315-2228

ホームページを開設いたしました
<http://www.ninoyusatoshi.com>

「新政経懇話会」入会のお願い

「新政経懇話会」では、機関紙「えとす」の発行をはじめ、ニノ湯さとしの政治活動をご支援いただける会員を募集しております。
是非、ニノ湯さとしの政治理念と主張にご賛同いただき、ご入会下さいますようお願い申し上げます。

新政経懇話会 年会費 1万円

入会申込・お問い合わせ先
ニノ湯さとし事務所 ☎075-315-2228



本体価格9,800円

**3代知事
北垣国道日記「塵海」が発刊
京都近代史を知る貴重な資料**

京都から東京へ日本の首都が変わり、明治天皇が江戸(東京)へ行かれた。天皇とともに多くの人々が京都を離れ、人口の減少と東京への遷都で、京都は火の消えたような町になったと言われている。

第3代京都府知事となった北垣国道は琵琶湖疏水の開削こそ京都を再生する道であると、当時弱冠21才であった青年土木技師田邊朔朗を抜擢、国産の土木技術で見事完成させた。疏水こそ京都近代化の原点である。このほど思文閣出版より北垣国道日記「塵海」が出版された。